

宮城県農業共済組合



1 宮城県の紹介

宮城県は、東北地方の東南部に位置しています。東は太平洋に面し豊かな漁場で、全国屈指の水揚げ量を誇るうえ、特産のフカヒレやカキなどの水産物に恵まれています。また、日本三景の一つ松島をはじめ、風光明媚な観光地があります。西には蔵王、船形、栗駒などの山々が連なり、太平洋沿岸部から奥羽山脈の麓にかけて広大な平野が広がり、稲作中心の農業が盛んで、米どころとして有名です。

気候は、同じ県内でも東西で異なり、東部は太平洋からの海風の影響を受けやすく、夏季は涼しく冬季は極端に寒くならず降雪

も少なく、年間を通じて穏やかな気候となっています。一方西部は、山々の影響により冬季は降雪の多い気候となっています。

宮城県は、東京から東北新幹線で約 100 分、日本の主要都市とも国内線のアラインがあり、また仙台空港からの国際線のほか成田空港や関西国際空港経由でのアクセスがよいのも特徴です。

東北三大祭りの1つとされる「仙台七夕まつり」や「光のページェント」などの祭り、「瑞巖寺」や「青葉城跡」などの名所、「鳴子温泉郷」をはじめ「作並温泉」や「遠刈田温泉」などの温泉地、そして「牛タン」や「はらこめし」や「せり鍋」といった豊富なグルメがあり、国内外から観光客が多く訪れます。



仙台七夕まつり

2 宮城県の農業

宮城県は海・山・大地に育まれた豊かな食材に恵まれています。広大な平野部では稲作が盛んに行われており、「みやぎ米」のブランド力強化に向け、主力の「ひとめぼれ」や「ササニシキ」に加え、「だて正夢」や玄

米食向け品種「金のいぶき」の生産拡大に取り組んでいます。また、大豆の生産も盛んで、収穫量は北海道に次いで全国 2 位となっています。

畜産業では、肉用牛が全国上位の飼養頭

数であり、肉質等級が最高ランクの5等級のみという厳しい基準を持つブランド牛である「仙台牛」のさらなる銘柄推進を図っています。

野菜では、露地栽培では地域の気候風土を活かした「仙台白菜」や「仙台曲がりねぎ」などの伝統野菜や、地理的表示保護制度

(GI) に登録されている「河北せり」「仙台せり」などの産地強化が図られています。また、施設園芸では「いちご」「きゅうり」「トマト」「パプリカ」の生産が盛んであり、アグリテック導入による農業生産の効率化と高度化を推進しております。

3 宮城県農業共済組合の概要

- 本所所在地：宮城県大崎市三本木字大豆坂 24-3 4F
- 本所電話番号：0229-87-8281（代表）
- 理事：16名
- 監事：3名
- 職員数：306名
（内 獣医師数：45人）
※ 嘱託職員・契約職員を含む
（令和7年4月1日現在）



NOSAI 宮城本所

4 宮城県農業共済組合の活動

当組合は平成27年に県内8つの農業共済組合と連合会が1つとなり発足しました。現在では支所統合を経て、本所と3支所、3家畜診療センター及び家畜診療研修所体制で運営しております。

新型コロナウイルスによる影響が減少し、日常が戻りつつあることから、景気の回復が期待されておりましたが、世界各地の紛争の影響で、農業をめぐる情勢は、肥料や飼料等の生産資材とあらゆるものの価格が高騰し、農業経営にも多大な影響を及ぼしているところです。

近年の常態化している異常気象について、NOSAIでは農業者が安心して営農を継続していけるようサポートを続けてまいります。

農業共済に加え、収入保険では自然災害

のみならず、さまざまリスクによる収入減少の補てんやつなぎ融資により、農業経営を支えることが可能となっています。収入保険については、関係機関の協力をいただきながら全ての農業者に制度の周知を図るとともに普及に努めています。

本組合が全ての農業者に対してセーフティネットを提供し、将来にわたって安定的に事業を継続し得るよう、新たな改善計画を策定し、実行に努めており、一層の合理化・効率化を図っています。

今後もNOSAIでは、農業者の皆さまへ足を運び、一人一人の理解を得ながら「備えあれば憂いなし」の農業生産体制の強化に向けて、農業共済と収入保険の普及推進に役職員一丸となり取り組んでまいります。